

特別優秀賞

忘れられないあの人

香川県 下笠居小学校 六年

蓬萊 優姫

私は去年、今までに出会ったことのないすてきな女の人に出会いました。

その日、私はお母さんに頼まれた野菜や果物を買うために近くのスーパーに行きました。買い物メモを見ながらカートを押していると、カートの角が、玉ねぎがたくさん積まれている箱に当たってしまいました。

「ゴロン、ゴロン！」

音を立てて、四個ほど玉ねぎが下に落ちてしまいました。玉ねぎを買う予定がなかった私は、

(どうしよう。落としてしまった、玉ねぎ……恥ずかしい。)

そう思いながら、落ちた玉ねぎに手を伸ばしたそのとき、近くで買い物をしていた女の人がいっしょに玉ねぎを拾ってくれました。そして、その人は玉ねぎを元のあった箱に入れるのではなく、迷わず自分のカートに入れました。私は驚いて女の人顔を見ました。するとその人は、

「この玉ねぎ、落ちてしまったでしょう。だから、私が買うわね。」

と、ほほえんで言いました。

「でも、落としてしまったから傷みます。新しいもの買ってください。」

と言うと、

「そうやね、傷んでしまうかもね。箱にもどしてしまうとお店の人も困るし、もし、誰かが知らずに買ってしまったら申し訳ないよね。私は今日使うから大丈夫なの。」

そう静かに語る言葉に、ものすごく感動しました。私は、その人のように誰かのことを考えたことはありませんでした。自分が困ったり、恥ずかしいと思ったりすることで精一杯でした。

何も起こらなかったかのように、さっと落ちた玉ねぎをカートに入れた姿。さわやかな風のような行動は、私の心に染みしました。そして、「大丈夫」という言葉が、さっきまで一人で「どうしよう、恥ずかしい」と困っていた私の気持ちを、うそのように軽くしてくれました。

その人に何度も何度もお礼を言って別れたあと、買い物をすませて家に帰りました。そして、お母さんにそのできごとを話すと、

「その人、すごいねえ。ふつうは見ても見ないふりする人も多いのに。手伝ってくれた上に、お店や他の人のことまで考えて、自分で買っていくなんて。優姫も、困っている人に手を差し伸べられる人になれたらいいね。」と言いました。

その出会いで、私は多くのことを学びました。困っている人がいたら声をかけたり、手を差し伸べたりすること。自分のことだけでなく、ほかの人のことも考えて行動すること。すぐにできるようになることではないかもしれませんが。

でも、あの女の人に近づきたいという強い思いが私の中に生まれ、少しだけ成長した自分を感じることができたのです。